

「文際的世界の国際法」シンポジウム報告者・報告題名一覧

〈第一部〉

ジェイムズ・クロフォード判事（国際司法裁判所）

“In What Sense Are International Courts and Tribunals Transcivilizational? Some Reflections on ONUMA Yasuaki's Key Concept”

（国際裁判所はいかなる意味において文際的か？大沼保昭の中心概念を考える）

アンドリュー・ハレル教授（オックスフォード大学、国際政治）

“Transcivilizational Law and the Future of Global International Society”

（文際的法とグローバルな国際社会の未来）

ラウリ・マルクソー教授（タルトゥ大学）

“Professor ONUMA's Transcivilizational Approach and Some Reflections on the Future of International Law”

（大沼教授の文際的アプローチと国際法の未来に関する考察）

李根寛教授（ソウル大学）

“ONUMA Yasuaki's International Law in a Transcivilizational World: A Portrait of Intellectual Audacity”

（文際的世界における大沼保昭の国際法：知的大胆さの姿）

マイケル・リースマン教授（イエール大学）

“The Great Compact and the Future of International Investment Law”

（偉大な盟約と国際投資法の将来）

〈第二部〉

易平准教授(北京大学)

文明の観点から見た「中国の台頭」

川副令准教授 (佐野短期大学)

東京 (帝国) 大学国際法教授の系譜と大沼保昭国際法学の座標

斎藤民徒教授 (金城学院大学)

「誰のための国際法学か? - 『主体』から考える大沼国際法学の異端性と正統性」

篠田英朗教授 (東京外国語大学、国際政治)

「西洋中心主義」と「国内モデル思考」の重なりと「文際的」国際法

マティアス・ツアハマン教授 (ベルリン自由大学、東アジア研究)

“History and Justice in a Transcivilizational World: Some Reflections on ONUMA Yasuaki's Oeuvre from a Western Humanities” (当日報告は日本語)

(文際的世界における歴史と正義: 大沼保昭の著作を西洋人文学の観点から考える)

長尾龍一・東京大学名誉教授 (法哲学)

日本国際法学史と「文明」

報告者のペーパーは、英語のものは日本語訳も付けて、登録・参加料支払いを済ませたすべての参加者がネット上から事前にダウンロードできるようにいたします。